

「五輪峠は今①」 閉鎖中！ 雪解けまで。

イーハトーブ風景地の一つ



<人が立っている所に藩境塚がある>

1 五輪峠の歴史について

【五輪塔について】

今から 350 年以上前に、上大内沢の千葉日向という侍が、葛西大崎一揆によって葛西氏が攻められた時、従軍して戦死した父の菩提を弔うため上野の子息日向が寛永年間に建立したものであるとされている（江刺郡志）。千葉上野屋敷跡は上大内沢にある。

峠はかつての盛岡藩領と伊達藩領の藩境で、麓には両藩の境目番所があった。

昭和 29 年五輪峠に行った時、まん丸い石が崖の下にあり、不思議に思ったことを覚えている。地震で崩れていたのだろう。その後 31 年に県道ができた時、花巻側に移されたのでしょう。現在の五輪塔は三代目と思われる。

県道 174 号線(小友—米里)は昨年秋から春まで閉鎖中です。昭和 32 年開通して遠野までの県道ができ大いに住民に喜ばれ、沿岸からの魚の輸送道路として活躍しました。バスも江刺—遠野線が 2 往

復ありましたが、便利な県道ができると乗客が少なくなり、かなり前に廃線になってしまいました。

県道ができるまでは、人首から大内沢を通り、五輪峠を越えなければなりませんでした。昔は伊達藩と南部藩の貴重な交易街道で、沿岸—内陸をつなぐ産業街道でもありました。その証が、五輪峠に半壊してはいますが、藩境塚が現存しています。

この峠を越えた有名な人は、日本ハリストス教会の日本人として最初の大司教になった坂本龍馬の従兄弟沢辺琢磨、俳人河東碧梧桐、柳田國男、佐々木喜善そして宮沢賢治である。

2 宮沢賢治作品について

(1) 「五輪峠 (定稿)」 (『文語詩稿 50 編』)

【五輪牧野記念碑】

五輪峠と名づけしは 地輪水輪また火風
(巖のおらと雪の松) 峠五つの故ならず
ひかりうづまく黒の雲 ほそぼそめぐるかぜの道
苔蒸す塔のかなたにて 大野青々みぞれしぬ
宮沢賢治



(2) 「五輪峠」 (下書き稿から)

五輪峠と名づくるは
峠五つのゆゑならず
温石石と雪の松 ※温石石は蛇紋岩のことで、この地区では
苔蒸す塔に名を負いぬ 湯たんぼ代わりにしたとも言われている。

3 渡辺票兮(勉) 私の隣の人

今回は俳人河東碧梧桐と接点のあった人首の俳人渡辺瓢兮(票兮)について紹介します。

明治 15 年 人首町 39 番地に生まれる

30 年 盛岡中 (現盛岡一高) に入学

33 年 東北医専(現東北大学医学部)入学

35 年 「明星」(与謝野鉄幹主宰)に1首投稿

38年 「小天地」第1号(石川啄木主幹)に6句投稿

芍薬に病養う田舎かな
水吹けば水の玉散る牡丹かな
寺に見る哀れは晝の灯籠かな
東や稲妻光る山の上
麻干すや日影傾く鳳仙花
稲光竹の鞘を走りけり

39年 米里村役場職員に
句会「青瓢吟社」を立ち上げ
河東碧梧桐 人首に来訪
「人首と書いて何と読む 寒さかな」

河東碧梧桐

※松淵先生や和田さん達がお館山
に建立してくれました。



正岡子規没後、河東碧梧桐一行は新しい俳句を求めて全国を行脚し、その途中人首に立ち寄った。何故なら、仙台で共に俳壇で活躍した渡辺票兮が人首に帰っていたからだと思われる。紀行文「三千里」によると、彼らは平泉から人力車で人首入りし、徒歩で五輪峠を越えて行った。その途中小友付近で道に迷ったとも記されている。

昭和4年 米里村役場助役に

8年 退職

※盛岡一高同窓会名簿の渡辺勉(票兮)の職業欄に元米里村助、
電通社員とある。

今回は沢辺琢磨について報告します。